

第3回風景デザインサロン●開催レポート

第3回風景デザインサロンの実施状況

去る平成19年11月30日(金)に、福岡市薬院にて、第3回風景デザインサロンを開催しました。

- 講師：川口芳人氏(国土交通省九州地方整備局企画部)
- テーマ：景観カルテの運営状況
- 開催時間・場所：18:30~21:00 / I CONE (福岡市薬院)
- 参加人数：31名

第3回目のサロンでは、九州地方整備局で全国に先駆けて行われている景観形成管理システムの運用状況について川口氏・工藤氏によりご説明いただきました。ご説明の中では各事務から出された課題や行政ニーズなどいろいろお話をいただきました。質疑応答では、参加者から活発な質問があり、第2回目と同様にアツという間に時間が過ぎていきました。



第3回風景デザインサロンの開催です

講演内容の骨子

＜システム運用までの経緯＞

- 「美しい国づくり政策大綱」の策定(H15.7)
- 「美しい九州づくり懇談会」の設置(H17.2)→「風景立国九州」を提言(H18.4)
- 「景観委員会準備会」及び「景観委員会」の設置(H18.7~11)
- 「景観形成システム」の本格運用(H19.4)
- 「第1回景観委員会の開催」(H19.11.2)6案件について検討

1. 景観検討は必須の時代

景観検討は必須の時代となった。各事業の景観形成ガイドラインも揃ったが、職員が熟知していない。事務所の係長クラスでも読んでいない職員がいる。景観に対して良し悪しの判断がつかない。人材育成の一環として景観形成管理システムのしくみをつくりたい。

2. 意識を変える

「九州の川づくり八景」：私の管理する美しい河川風景を紹介します。

- ・管理している河川において、四季を通じて、自慢できる河川風景を職員自ら撮影する。
- ・撮影された風景はライブラリーとして整理し、各事務所に紹介、コンテンツを実施。
- ・はじめの頃は、逆光であったり、構図がひどいものもあり「これが八景？」と思われたものがあったが、次第に意識が変化し、すばらしい風景写真が寄せられるようになってきた。

3. 景観検討は誰でもできる。

- ・発注者は景観のイメージづくりに時間かけてほしい。市販本で勉強する程度でイメージパースは簡単に描ける。計画の前に職員自ら構想図をつくってほしい。
- ・川の模型のノウハウはリバーフロント整備センターから教科書が出ている。各事務所にも今後指導をできるようにしていきたい。

4. 景観カルテ運用の苦労ばなし

- ・管内各事務所から業務が増えるということで意見がきた。
- ・河床掘削や除草なども行うのかというような質問があったが、すべての事業に景観検討がともなうと考えている。
- ・11月2日第1回の委員会を開催し6つの案件の検討を行った。カルテ事例の作り方も良くなかった。レベルの高い事例からそうでない事例もつくればよかった。
- ・最終的には事務所で管理できるようになれば良いと思う。



ある事務所での選考会の様子



川口氏撮影の川のフォトライブラリー



熱心に苦労ばなしをしていただきました

質疑応答

川口氏の熱心なご説明の後、質疑応答の時間を設けて意見交換をしました。前半は川口氏、後半は工藤氏に回答をいただきました。風景デザイン研究会の会員メンバーをはじめ学生さんなどから、時間が足りなくなるほどの多くの質問や感想をいただきました。主な質疑応答は以下のとおりです。

- 1) (質問) 今後案件が増えていくことが想定されるが、委員会の密度をあげるにはどのようにするのか？
(回答) 案件は今後増えると思われるが、最終的には出先の事務所でしっかり景観をチェックできるようになってほしい。システムが動き地域のためにもものをつくることを考えてもらえば良いと思う。
- 2) (質問) 市町村に対する要望は？
(回答) 市町村は整備局の事務所ともよく話す機会を持ってほしい。景観法を活用し景観計画を定めるなど、大きな方向性をもってすすめてほしい。
- 3) (質問) 景観カルテを図るタイミングはいつか。
(回答) タイミングは各事務所にまかせてある。景観委員会を何月くらいに実施するということだけをアナウンスしている。それぞれの事業で、挙げられる段階まで検討が進んだときに自然体で挙げてもらえば良いと思う。
- 4) (質問) 今後は補助事業として発展するのか？
(回答) 今のところは考えていない。
- 5) (質問) 景観検討に必要な費用の手当てがむずかしいがどこまでできるのか？
(回答) 検討レベルの高いものは歩掛を入れなければいけないと思う。河川砂防技術基準にも景観は入っていないが、軽微なものは通常の歩掛でできる。施工段階に入ってもイメージアップ経費で景観検討が可能な部分もあると思う。
- 6) (質問) 良い事例集を作った場合すべてが同じような景観になってしまうのでは？
(回答) 事例集は具体的にはまだ考えていないが地域らしさにこだわりたい。
- 7) (質問) 事例集に地域性をどのように摺り込んだか載せてほしい。
(回答) 第1回の委員会でも経緯をカルテに入れてほしいとの要望があった。埋めきれない部分は参考資料としてつけてほしいと考えている。
- 8) (質問) 委員は行政・大学の先生のほかに他地域の事例も良く知っているコンサルも入れてほしい。
(回答) 今後、計画・設計に携わったコンサルもオブザーバーなどで入ってもらっても良いと思う。
- 9) (質問) コンサルタントにこれだけは言っておきたいことは？
(回答) 樋門などはそのもの単体でデザインを検討しているが、山などの背景も入れて検討してほしい。
- 10) (質問) 大学時代は模型を作り検討していたが、コンサルに入り模型を作らなくなりジレンマに陥っている。
(回答) 技術提案に模型により景観検討を行うことを提案すれば評価が高い。PRしてほしい。
<以降の回答は工藤氏>
- 11) (質問) カルテのプライオリティをつけてほしい。
(回答) 現段階ではプラオリティつける段階ではないと考えている。意識を浸透させるため何ができるかを考えていきたい。とにかく、少しでも景観を考えるようになることが重要。景観カルテは良く出来ていて、景観を何も検討していない項目は空白となる仕組みとなっている。景観がきちんと検討されているかどうか容易に確認できる資料となると思う。
- 12) (質問) 大学も景観工学など専門が出来てきたが、上の方の意識が変わるようにして欲しい。
(回答) 全ての事務所を集めて教育することは難しいが、カルテは所長が説明するようにしているため、事務所長までわかっていないと説明が出来ない仕組みになっている。カルテの内容を景観委員会に説明するために、上下で意思統一を図るようになるものと思う。
- 13) (質問) 全国に先立って実施したが10年で消えないよう頑張ってもらいたい。
(回答) 消えていかないよう、事務所だけでなく整備局本局でも(きちんと)景観が検討されているか確認するようにしていきたい。
- 14) (質問) 時間がかかるからやりたくないという意見があったが、景観検討の業務を加える代わりに減らせるものはないか？
(回答) 景観はやってあたりまえだという時代だと思う。「めんどくさいからやらない」というわけにいかないと考えている。
- 15) (質問) 景観形成管理システムはリニューアルしていくのか？
(回答) 今後改善すべき点が挙がってきたときに変えていくため、わざと(案)にしている。今のところはあの程度と考えている。
- 16) (質問) 今後はたくさんの事例が出てくると思うが？
(回答) どのくらい増えるか見えていない。重要な項目に絞って説明するようにするなど、考えていきたい。

次回の予定

次回サロンの予定は、次のとおりです。皆さん奮ってご参加下さい。

- 講師 : 武末博伸氏 (株建設技術センター技術第1部長)
- テーマ : 臈大橋の景観設計で考えたこと
- 開催日時 : 平成19年12月20日(金) 18:30から2時間程度
- 開催場所 : ICONE (福岡市薬院一丁目) 予定



参加者も熱心に聞き入っていました